

・・・雨でも休まず、234回、235回・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- 1、臨時活動 4月5日(土): 相模原さくら祭り協賛: 小原本陣の森活動に替えて実施  
～6日(日)「木を生かすことは森を守ること・相模原の森林を守れ」を  
広報する。参加費無料。市役所横・第2駐車場2階全面使用
- 2、代替定例 4月13日(日): 小原の郷・孫山～小原間、周遊道開削、市と協働事業、  
参加費無料、10時小原の郷集合
- 3、定例活動 4月20日(日): 若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動  
参加費400円
- 4、自由参加 4月29日(祭日): やまなみ祭: 県立相模湖公園、自由参加、  
参加費無料“森づくり・モノづくりコンテスト・表彰式”

- ・初参加: 9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
- ・服装: 汚れても良い服装、着替え、長袖、滑らない足元
- ・持参品: 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、20日のみ自分のお椀と箸
- ・注意: 危機管理・救急体制: 安全気配り、森林ボランティア保険、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

### 温暖化対策他・・・無限にある森林NPOのすべき事

昨年9月時点での調査によると北極の氷が、日本の国土面積の3倍に当たる約413万平方キロまで減少しているのが確認された。地球温暖化は、40～50年前倒しで進んでいるそうだ(気候変動に関する政府間パネルIPCCのシミュレーション)。

世界的な水不足が言われる中、森林が68%を占める日本では森林の保全・再生をする事で水の確保は保証される。また、日本の環境技術水準は、再生化エネルギー、省エネ、省発電など世界の最先端を行っているが、森林をうまく利用すれば、エネルギーゼロの住宅が可能であり、しかもわが国古来の建築技法を使えば100年・200年の長寿・健康住宅が期待できる。

豊かな森林資源からは、バイオマスエネルギー、例えば炭に光触媒(酸化チタン)を応用する事でホルムアルデヒド・キシレン・エチレン・サリンなどの有害化学物質の吸着・分解が可能となる。また、耐震技術やリサイクル素材、太陽光発電などと組み合わせることによって、住環境の高品質化を図り世界標準となって普及させる事もできる。世界の住宅の環境負荷低減に繋がる住宅産業を生み出すこととなる。かくして、当会の主張する「環境と経済の矛盾しない社会づくり」を具現化の一翼を担う事となる。まるでお伽噺に聞こえるだろうが、自由な発想が得意の森林NPOは、本気でこんなことも考えている。

2008.3.2(日)晴

- ・参加者：石村，斉藤，佐々木，松原，川田(記)  
フォレストノバ= 二藤，加藤，佐枝，嶋本  
読売新聞：堀田記者(午前中)
- ・作業内容：10時～15時：径路作り

### 概況

今月から，小原本陣の森の定例活動日が変更になり，毎月の第1日曜日になった。定刻通りに相模湖駅に集合。本日は読売新聞の取材で堀田記者の同行取材参加があった。森の入口から基地までは，徒歩で道具や昼食材料を持って運んだ。

先月に続き，今月も径路作りである。ミーティングで作業確認，工具を準備して，基地から現場に向かった。寒さも和らぎ作業するには良い気候になってきた。径路入口からは，これまでの径路の出来栄をチェックしながら登った。現場に到着後，作業分担を再確認し作業を開始。



取材を受ける川田さん

この付近には倒木が少ないので，土留め用として細い立木を間伐し利用することにした。細い木でも高さ15m位にもなると，掛り木にせずつ倒すのはかなり難しい。古い径路跡が認められて，復旧利用することが出来たので作業は順調に進んだ。10人程度の人数が，統制も取り易くチームワークも良く，作業能率や安全の面からも良いと思う。伐倒・枝払い・玉切り・杭作り・杭打ち・土留め・隙間埋め・土寄せ等の多種の作業を，余裕を持ってやれるので，経験しながら技術技能を高めるのに役に立つ。



樹皮を取った材

気が付くと12時になっていたもので，一旦基地に戻り昼食にした。暖かいシチューとキャベツの漬物を，石村夫人の心遣いに感謝して，皆お代わりをしてスキ腹に詰め込んだ。

午後からの作業も順調に進み，作業に慣れてきたので，本日は径路を70m位施工した。松原さんは手鋸で3本も伐倒したので大満足であった。50m位で上りの尾根筋の下端に繋がるまで来た。そこからは尾根の緩い上り傾斜なので，径路作りも楽になる。基地からの帰り路は，クワとスコップで道路補修と排水溝処理をしながら下った。

次回は，中里山の境界杭の再確認と番地表示も作業に加えたい。

「梅が香の 野点のぜいたく 森づくり」

春！森入口の花畑で、紫と黄のクロッカスがお出迎え。雪でいっぱいだった先月とうって変わって春の光の森の中、アチラコチラに生きもののうごめく気配を感じさせる。もう一つ、咲いてた!? 基地のリュックツリー。地面におくと広がる荷物類も、頑丈な木の枝にかければ汚れず場所とらず！（木工班作製）

参加者は Forest Nova 7名、望星高校6名、初参加1名、森仲間20名。



蜂の説明をする黒川さん

森林整備班は、雨排水の森の道整備。雨でえぐられた道の穴を埋め、別の流れの道をつくる。又、森の中を回り、倒木や散らばった枝などの整理、少数なりのやり方でもあつという間に森はきれいになり、喜んでいるよう。

望星高校の森は調査、地図作製、植林など。卒業生のコメント

「毎回来る度に発見がある。木の生長が見れて良かった」（稲玉）

「午前、広葉樹を数本植え、午後は測量。今後の計画、ナンバリングも不十分で、地図も修正必要、気長に取り組みたい。今日は後輩に会えてよかった、時の流れを感じた。」（阿部）

さて、にぎやかになった花畑ではポピー、サルビア、なでしこ、綿の花などの秋咲きの種蒔き。又、見晴らしよくなるようにアーチを取り払った。（別の所へ、又作る）



「ぜいたく」な野点の様子

この日のおたのしみは、栗田夫妻の御好意による満開の梅の下の野点。奥様がお茶を点て、だんな様がおもてなしのお運び。上品な「桜（らくがん）」と「葉っぱ（ゼリー）」の茶菓子も、なんと奥様の手作り！！梅の香りの風に吹かれ、老若男女の談笑による光景を見て、「ぜいたくだねえ」としみじみ、石村氏。お運び助っ人娘!?三人のハン天姿！「若い方達、将来山でおばさん達にお茶をのませてもらったことを思い出すかな」（青山）

この日のおみやげは珍しい日本蜜蜂の蜜！（黒川提供）

NPOのたのしみは人との交流大きいと思うが、かえりのかどや会議は望星高校、二人のOB生（20才）と宮村先生の楽しいやりとりに、「伝承」を感じいい酒でした。



# 森×2勉強会の報告

私たち Forest Nova は、2月24日に森×2勉強会というものを開き、富士通総研に勤められている社会人の安藤さんを招き、今の林業の在り方について学ばせて頂きました。

内容については、まず、これまでの林業は森林の所有規模が零細で生産・流通・加工が小規模・分散的・多段階であったということ。そのためにハウスメーカー等のニーズに応じた製品の安定供給ができず、需要が低迷すると林業家への還元も出来なくなり、森林の手入れが進まない状況になってしまいます。



そこで、「新生産システム」について教えて頂きました。新生産システムとは、モデル地域において、川上から川下までの合意形成に基づき、施業・経営の集約化、協定取引、生産・流通・加工のコストダウンにより、ハウスメーカー等のニーズに応じた安定供給を実現。需要の拡大を通じて林業家への還元を増やし、森林の手入れを促進するというもので、今注目されているシステムだそうです。

私たちはこの勉強会によって、普段知ることの出来ない貴重な話を聞かせて頂きました。これを活かし、今後林業の在り方について考え、より深い活動を行っていきたいと思います。

## さくら祭

4月の5日、6日に行われるさくら祭で、私たち Forest Nova も出展させて頂くことになりました。

今年のさくら祭のテーマは「津久井の森を守る・作る・使う」。NPO 団体、行政、他たくさんの方が運営し、森に関する様々な企画を行います。子供が乗れる石炭で動くミニSL列車、間伐材で作った積み木など、子供達が実際に体験できる企画もあり、大人から子供まで楽しみながら学ぶことが出来ると思います。

学生のブースでは、Forest Nova の団体説明のパネル、活動写真集、そして実際に活動中に作った木のベンチを展示します。参加型の出し物としては木の時計作り、アゲハ蝶の育成キット作りを予定しており、自分の手で作ることで木の魅力や大切さを感じてもらえたらと思っています。また、学生ブースを「森で活動している若者(学生)のブース」とし、Forest Nova 以外の学生団体を誘致し、団体の紹介や森に対する考え方についてパネルを出してもらおうと考えています。普段関わることの出来ない方々と接し、繋がりを持つことで、お互いの刺激にもなり、今後の活動に反映させることが出来るのではないかと思います。

たくさん魅力が詰まったお祭りですので、ご都合が付く方は是非お越し下さい！ Forest Nova は、相模原市役所前の駐車場2階、学生のブースでお待ちしております

2月29日、橋本駅近くの宮上小学校の総合学習で話をしてきました。この小学校では、水をテーマに活動をしています。今回は、自分が森に通うようになり最も衝撃を受けた事実、それにしました。あとは小学生にウケるように「見せる」ことだけです。

用意したネタは間伐材を輪切りにした、コースターまがいのあれです。間伐をしなかったために、外側の年輪が判別できないほど密になっている、つまり生長していない、地面が水も吸収しない、ここを落としどころに決めました。宮上小学校の生徒も間伐材活用コンテストにも参加していたので、「だから、間伐材を使わねばならない」、話の組立は完璧です。

話が始まり、様々な写真が映し出されます。様々な声があがります。しかし、いつもと違うこの感触、そう、観察力、洞察力がとても小学生とは思えないのです。「滝、富士山、大きい岩、みんな 様なんだけど」、即答えが。「神様〜。」普通、次に出てくるもののけ姫のイラストの神様で分かることです。間伐後の森の様子ビデオでも、間隔が広い、下に草が生えている、まだ話していないのに、森が明るい、なんて声まであがります。せっかく一人でしめしめと思い用意した間伐材の端切もすぐ、年輪がおかしいと気づいてしまう。

総合学習を突き詰めていくと、こういう子どもが育つと言われるし、見てきました。知識ではなく、自分の目で見て、感じ、それを整理して言葉に出して伝える。最近は言われなくなりましたが、これが「生きる力」です。結構自信のあるプレゼンを用意しましたが、授業の主役は子どもたちであって、教師は黒子である。総合学習のあるべき姿を、その情熱を初めて持った日を思い出した出前授業でした。



出前授業をする宮村先生

## 県立相模湖公園：改装始まる。

お花畑の指導は実は、ガーデニング専門誌を経営する丸茂会員なのだが、相模湖公園管理事務所から改造指導を頼まれた。

その第一弾が公園の真ん中にあるお花畑。右の写真は、改造中のもの。今後、引き続き第2弾、第3弾と改装を進める。仕上がりが楽しみだ。



ハーブマットを敷いた様子

### 1、臨時活動(4月5日～6日)：相模原市・市民祭り(さくら祭り)

昨年の市民祭りでは、「木を使うことは森を守ること」をテーマに森林に関わる6団体が初参加した。今年は昨年の4倍規模で参加する。桜満開の市役所・第2駐車場2階全部使用。参加団体：緑のダム北相模、SHS友の会(小林住宅・市川屋製材)、神奈川建具組合、都市産業研究会(相模原商工会議所所属)、自遊クラブ、畑と田んぼ環境研究会、北都留森林組合、学生連合Forest Nova、(財)オイスカ、相模湖・ふるさと鉄道愛好会、森林再生促進事業実行委員会、以上11団体。

\* お楽しみ：石炭で走るミニSL森林列車(乗車賃：100シエン：森仲間は家族連れでおいで、ミニ列車無賃乗車OK。そして、お手伝い頼む)、積み木広場(積み木2万個)、緑のダム茶亭ムササビ、森づくり・モノづくり作品発表会

### 2、参加歓迎(4月29日)：森づくり・モノづくりコンテスト：表彰式

主催：森林再生促進事業実行委員会：相模湖町・やまなみ祭りに協賛参加

相模湖商工会などと組んで、森林再生のためのアイデアを全国から募集した。161点の応募があった。優秀賞・佳作などを選んで表彰する。作品展示は、相模湖交流センター。祭日のこの日、湖畔でいろんな出し物が繰り広げられる。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称：特定法人非営利活動法人緑のダム北相模：若柳嵐山の森、小原本陣の森  
事務局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9  
発行人：NPO法人緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03-3411-1636  
HP：http://midorinodam.jp  
E-mail：info@midorinodam.jp  
協働団体：神奈川県(政策部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域総合センター森林部)セブナーイレブンみどりの基金、(財)オイスカ  
ご支援の団体：WWFジャパン、イオン財団、神奈川県建具協同組合、東急コミュニティー